

様式2

安曇野市農業農村振興計画推進委員会 会議概要

1	委員会名	平成27年度 第3回 安曇野市農業農村振興計画推進委員会
2	日時	平成27年11月26日(木) 午後1時30分から午後3時30分まで
3	会場	本庁舎 4階 大会議室(東)
4	出席者	浅川委員、池上委員、下田委員、鈴木委員、鶴見委員、三澤委員 板花委員、一志委員、飯田委員、等々力委員、渡辺委員、丸山(和)委員 佐藤委員、白澤委員、塩野委員
5	市側出席者	山田部長、大竹課長、平川局長、矢花課長補佐、丸山(忠)係長 等々力課長補佐、奈良澤係長、高橋係長、百瀬係長、樽沼事務局次長 上野課長補佐、沖課長補佐、土屋主査
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	平成26年12月10日

協議事項等

1 会議の概要

- (1)開会 (大竹課長)
- (2)あいさつ (佐藤委員長)(山田部長)
- (3)協議事項
 - ・第2回推進委員会に出された意見について[回答・意見交換]
 - ・報告書 まとめ
- (4)その他
- (5)閉会 (大竹課長)

2 協議事項

【第2回推進委員会に出された意見について(回答・意見交換)】

◎ 事務局より資料説明

(委員)

2P「農業で稼ぐ」の「地域団体商標」について、「出願拒絶査定となっているため～」とあるが、この時の商標名は「安曇野」だったのか、違う名前だったのか、どこで拒絶査定となってしまったのか。

6P「全体を通して」の「JA 松本ハイランドの意見」について、「JA 松本ハイランドの意見が反映できるよう対応する。」とあるが、来年度は JA 松本ハイランドが委員に入るのかどうか。

(事務局)

地域団体商標について、平成 25 年、市内事業者が登録申請をした時は「安曇野」と「わさび」であった。平成 25 年5月 10 日付で「拒絶査定」の通知がきたと聞いている。願書は出したが、申請は認められなかったということである。

(委員)

豊科インターを安曇野インターにしたように、市をあげて「安曇野」という名前の地域団体商標をとれるよう、具体的な目標をかかげて動いてほしい。

(事務局)

支援はさせていただく。

(委員)

申請者は法人格を持った団体や組合、商工会等になる。また、「安曇野」といえば「わさび」、「わさび」と言えば「安曇野」というように近隣市町村や近県の人達も、イメージし答えられるように PR しないとイケない。皆さんもそういうイメージづくりにご協力をお願いしたい。

(委員)

「安曇野」という名前は魅力があり、ブランドづくりとしては重要だと思う。次期計画の中にも目標を取り入れて動いてほしい。

(委員長)

これは、地域全体のバックアップが必要となる。ワサビに限らず、例えばコメについても「安曇野」というブランド名が必要になると思うし、コメの消費拡大にも絡んでくる。子どもだけでなく、親への啓発も必要である。将来に向けてこれらを取り組んでいけたらと思う。

※会議概要は、原則として公開します。会議終了後、2週間以内に作成しホームページへ掲載すると共に閲覧に供してください。

※会議を非公開又は一部非公開とした場合は、その理由を記載してください。

安曇野市農業農村振興計画推進委員会 会議概要

協 議 事 項 等

(事務局)

「JA 松本ハイランドの意見を反映できるようにする」について、現在 JA 関係は JA あづみから出ている。その他に、新たに委嘱するのか、また、条例では関係者から意見を聴取することができるため、オブザーバー的に意見をいただくとか、直接我々がお伺いして意見を聞くなどし、反映する方法もある。もう少し検討させていただきたい。

(委員)

市内で明科だけが JA 松本ハイランド管内となっている。そちらも様々な情報をもっている、理想は「農業関係団体」として今の委員と同じような立場の方が入ってほしい。

【平成 26 年度実施状況の点検・評価結果(案)について】

◎事務局より資料説明

(委員)

3P にある「田園産業都市」について、現在検討されている「安曇野市土地利用基本計画」と「安曇野市農業振興地域整備計画」の整合性をとることが重要になる。田園を守っていく事は、将来にわたる問題であり、この後にくるのが、「稼ぐ」や「生きる」だと思う。これを行わないと、田園都市構想は成り立たない。農業振興地域として線引きをしっかり行うことが重要である。

地域の拠点となる開発は重点的に行う必要はあるが、それ以外では農地を守ってほしい。高齢化などによって守れない場合は、農業開発公社や担い手などを通じて守ってほしい。

(事務局)

そのとおりである。土地利用について、農振法上、現在青地を開発することは難しい状況である。懸念されるのは、農振法によって開発が遅れてしまうこと、また、TPP により、農産物が今まで通りの価格で流通していくのかどうかや、遊休荒廃農地の増加もある。委員の発言にもあったように、担い手が担っていただけるようなシステム、農地中間管理機構などを農家さんに説明させていただき、農業委員の皆さんにもご協力いただきながら、遊休荒廃農地をこれ以上増やさない、むしろ減らしていくよう努めていきたい。

(委員)

担い手と言っても、その皆さんは現在かなりの面積を担っていただいている。大きな農地だからこなしていただいていると思うが、小さい農地もある。そこはやはり集落営農を立ち上げてもらい、守っていただく方策をとっていただきたい。

(委員長)

市全体の今後のために、大小関わらず農地を守っていかなくてはならない。

(委員)

観光について、前回も申し上げたように田園風景は安曇野の観光の大切な財産である。その中で、農業と観光が最近では接近して政策がたてられている。農家民泊はリスクが高いと思う。宿泊は宿泊業者に任せることがいいのではないかと。宿泊を農家に任せることは、長い目で見ると無理が出てくると思う。

また、農業は安曇野市を支える産業であるが、観光産業においても、農業に求めることもあり、きちんと線引きをしてほしい。

(委員)

1P の点検・評価結果(案)に続く本文1行目に「魅力ある農村づくり」とあるが、具体的に魅力ある農村の姿とは何か。

2P の今後の課題と方向性について、(2)の「戦略をもって売り出すことが必要である」とあるが、具体的にどんな戦略があるのか。

3P の(3)にある「市独自のブランドの確立と販売ルートの確保が必要」とあるが、現在 JA では全量出荷と言っているが、自分の販売ルートを持っている方もいる。この一文について、JA さんは何も感じないだろうか。

また、農家民泊についても、宿泊は宿泊業者、農業体験は農家にしたほうがいいと思う。

(委員長)

農家民泊について、学校と農家の希望スタイルが合わない場合もあることは事実である。

3P の(3)について、JA としてはどうか。

(委員)

市独自のブランドを確立することは必要である。その販売ルートについて、JA としては全農を通じて販売しているが、全部をそのようにしているのではない。JA あづみ独自のセールスを行ったりしている。

また、大型直売所ができるため、農家の皆さんには、そういった場所を上手く利用していただきながら、安曇野の農産物の情報発信をしていただきたい。なお、コメのブランドで風さやかがあるが、農家の手取りに結びついていかない。いい方策がないか模索中である。

2P (2)の「品質の高さを広く PR し、戦略をもって売り出すことが必要」について、安曇野の農産物の品質は高いが、だから売れるということではない。やはりマーケットイン(商品の企画開発や生産において、消費者ニーズを重視する方法)に基づく戦略を、市と一緒に立てていく必要があると感じている。

※会議概要は、原則として公開します。会議終了後、2週間以内に作成しホームページへ掲載すると共に閲覧に供してください。

※会議を非公開又は一部非公開とした場合は、その理由を記載してください。

安曇野市農業農村振興計画推進委員会 会議概要

協 議 事 項 等

(事務局)

「魅力ある農村づくり」について、基本計画策定時に、農家さん自らどのような農村スタイルがいいのかを議論していただいた。皆さんと一緒に作り上げてきた基本計画の全て、「稼ぐ」「守る」「生きる」に基づいた政策に取り組んでいくことが「魅力ある農村づくり」になる。

(委員)

3P の(6)(7)について農業と工業の関係であるが、両方が一緒に話し合える場所がない。そんな機会があれば、お互いが歩み寄り、またいい考えが生まれるのではと思う。

(委員長)

(4)について、「子どもを持つ親へ～」とあるが、そこだけでなく、全市民に関わってくることと思う。コメ消費や地産地消も全市民に行き渡るような啓発をしてほしい。

(1)(2)についてだが、(1)はこのとおり計画に沿って推進していくしかない。(2)については「戦略をもって売り出す」とあるが、品質が高い「安曇野ブランド」というものを全国に周知徹底して売り出していかななくてはならないと思っている。

(委員)

(2)について、「戦略をもって売り出す」とあるが、戦略とは「戦いを省く」こと、戦いを省きながらいかに勝ってゆくかを考えると、「安曇野」はここにしかないものなので、安曇野全体の地域資源を活かして農産物売っていく事が必要になってくると思う。皆と力を合わせて、観光等と連携しながらここにしかないものを作っていけばいいのではと感じている。

(委員)

今、ブランドという話があった。コメに関して、消費は減っているがブランド米が増えている。ブランドにこだわるよりも、地域で消費することを考えた方がいいと思う。

コメ消費について、現在学校給食では週3回米飯となっているが、完全米飯にしたらどうかと思っている。ご飯は栄養バランスに優れており、子供の健康を考えると一番良い。

また、(4)親にコメ消費の啓発を行うとあるが、逆に子どもから教育することが重要と思う。子どもがご飯を食べたいと言えば親は用意する。食べることから健康を考えなくてはならない。

(委員長)

ブランドは全体で「安曇野」ということでとらえてほしい。安曇野産の農産物は他よりも全体的に品質が高いということを PR していくということである。

(委員)

コメのブランドだが、「風さやか」という品種がある。学校給食の「安曇野の日」には PR を兼ねて子どもから教育している感じである。現在、月1回だが評判はいい。いずれは、学校給食は全て風さやかに代わればよいと思う。

(委員)

主食が変わるとおかずが変わり、栄養バランスも考えないといけない。教育委員会と連携をとらなければならないが、それをどうしてゆくのかということである。子どもの健康を考えた食事にしてほしい。

また、子どもの健康について、松本市では子どもの血液検査を行う中でデータを見てみると、メタボリックシンドロームの子どもが増えている。安曇野市ではまだやっていないが、健康面からご飯のよさを考えてもいいと思う。

(委員長)

組織内で食育との連携を強めてほしい。

(委員)

安曇野ブランドの話だが、コメどころ安曇野はコメを中心とした生活(おこひるやお茶の時間)をしている。そこで、コメそのものではなく、そういう生活など安曇野の食を中心とした文化も安曇野ブランドではないかと思う。そのような視点で考えてみるのも良い。

(委員長)

これらブランドの話は、次期計画に反映し次に繋げた方がいいと思われる。

(委員)

小学校6年生・中学 3 年生の全国学力調査でアンケートをとっており、90%以上の子ども達は朝食を食べてきている。中には冷蔵庫にある物を温めて食べてくるという子どももいるが、それも知恵である。その時すぐに食べられる物と言えば、パンになってしまう。

給食の完全米飯について、ご飯が全てでいいのかということもある。パンやうどんなど色々な食材があり、子ども達自身が自分や家族の健康を考えてバランスの良い料理を作っていくようになるためにも、食のバリエーションは必要であることから、完全米飯は難しい。

(委員)

TPP 問題は世界に渡る問題である。安曇野市だけがコメをどうにかするという考えではなくて、長期的なスパンで振興計画を考えて、単に今ある農村の風景だけではなく風景を描いていく、全部を一体的に捉えてゆく必要があると思う。農業だけにとらわれず、世界を受入れようやっておもてなしをすればいいかをテーマにして考えていけばいいのではないかと。

※会議概要は、原則として公開します。会議終了後、2週間以内に作成しホームページへ掲載すると共に閲覧に供してください。

※会議を非公開又は一部非公開とした場合は、その理由を記載してください。

安曇野市農業農村振興計画推進委員会 会議概要

協 議 事 項 等

(委員長)

意見が出尽くしたようである。文章表現や言い回し等は事務局で修正させていただくが、それを含め本案は、推進委員会としての決定事項である。条例第13条第3項の規定により、出席委員の過半数で可否の判断をする。本案に賛成の方は、挙手をお願いします。

(委員全員挙手・賛成)

(委員長)

賛成多数と認め、本案を可と決する。

※会議概要は、原則として公開します。会議終了後、2週間以内に作成しホームページへ掲載すると共に閲覧に供してください。

※会議を非公開又は一部非公開とした場合は、その理由を記載してください。